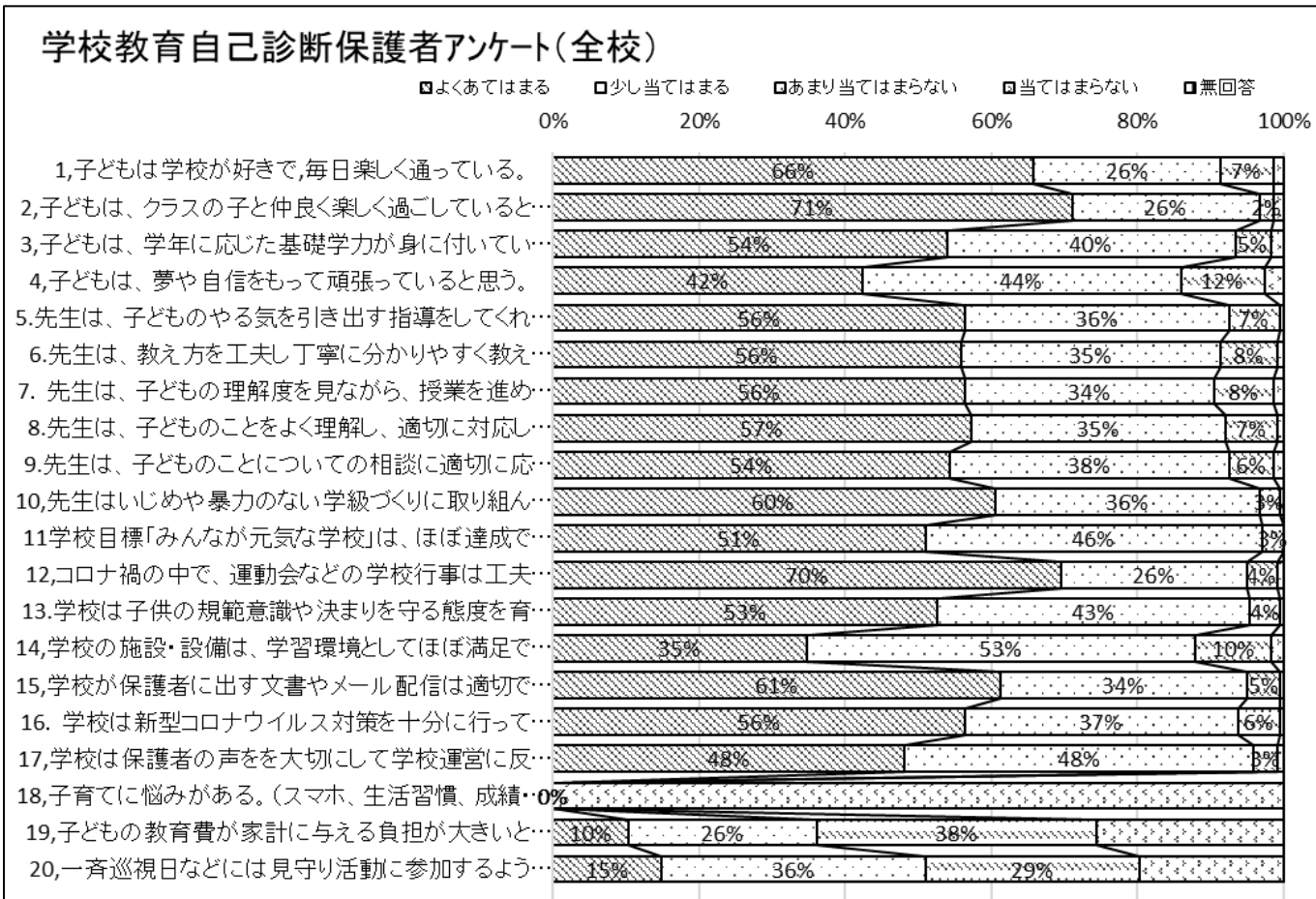


R4 年度保護者アンケート結果報告

1. 肯定的な回答 90%以上が 15 項目

保護者のみなさま、お忙しいなか、アンケートにご協力いただきありがとうございます。全 20 項目の内、「夢や自信」「学校施設」「子育ての悩み」「教育費負担感」「一斉巡視」を除いた 15 項目について、「肯定的回答」として 90%以上の評価を得ることができました。このような結果をいただいたのは、学校運営について、保護者のみなさまにご理解とご協力をいただき、子どもたちと先生たちが協力しながらとりくんできたからではないかと考えております。また、自由記述では、学校への応援とともに、よりよい学校をめざすために貴重なご意見をいただけたと考えております。本当にありがとうございます。

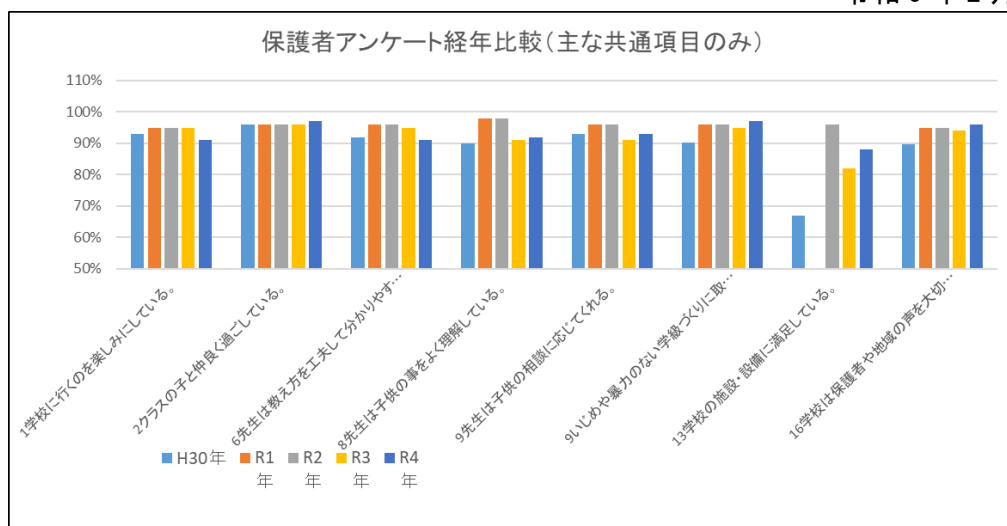


2. 経年変化や積極的肯定回答から

経年変化を見ると、肯定的回答率は昨年度と同じぐらいとなっており、「いじめや暴力のない学級づくり」「保護者や地域の声を大切にする」という項目で評価が上がっております。一方で、「教え方の工夫」「子どものことをよく理解している」項目での評価が厳し

くなっており、
来年度に向けて
の課題となっ
ております。

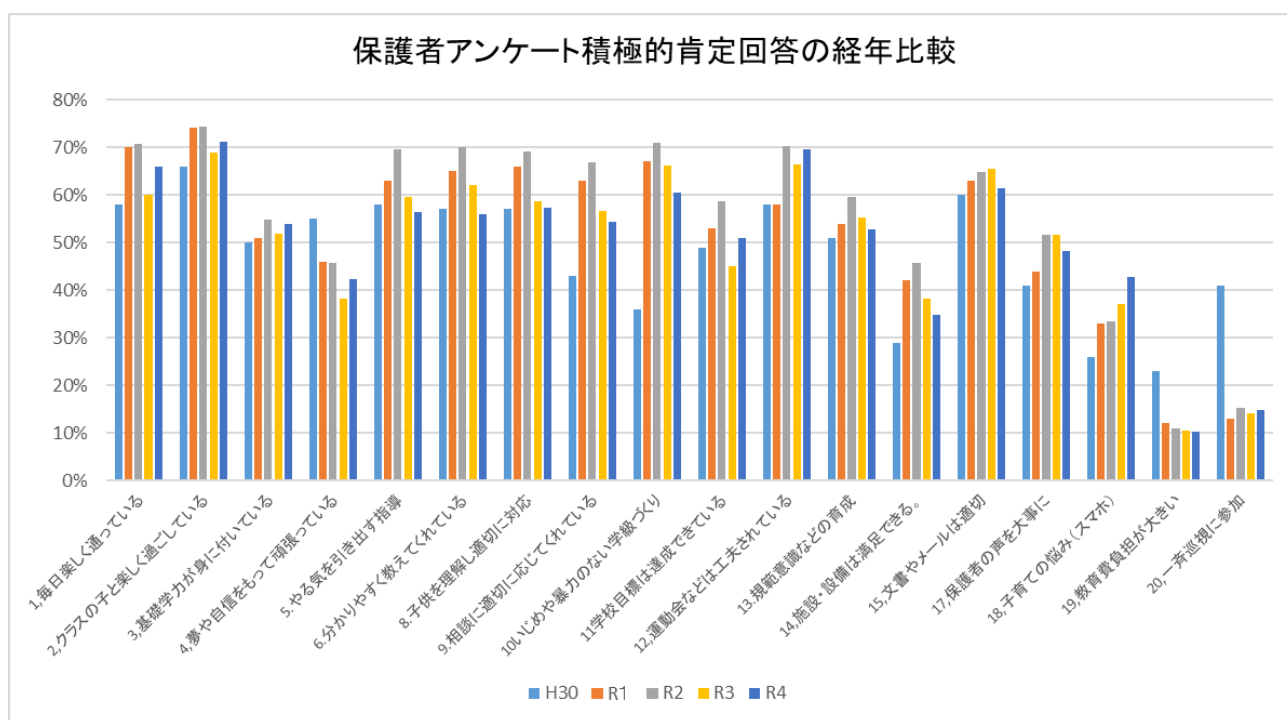
また、「積極的
肯定的回答」で
ある「よくあて
はまる」だけを
抽出して見ると
同じ 97% の肯定



的
回答でも、「2. 子どもは、クラスのこと仲良く楽しく過ごしていると思う」では、「よくあてはまる」という「積極的肯定回答」が 71% ありますが、「11. 学校目標「みんなが元気な学校」は、ほぼ達成できている」では、「積極的肯定回答」が 51% と低いことがわかります。

このように、「肯定的回答」だけに慢心せず、「経年変化」や「積極的肯定回答」にも注目して、とりくみを見直していきたいと思えます。

「積極的肯定回答」が低かったのは、以下の項目でした。



- 「学校の施設・設備は、学習環境としてほぼ満足できる。」 35%
- 「子どもは、夢や自信をもって頑張っていると思う。」 42%
- 「学校は保護者の声を大切にしている。」 48%

3. 夢や自信をもたせる機会を

学校の施設面については、教育委員会にも要望をあげておりますが、予算にも限界があります。しかし、「夢や自信をもってがんばっている」「みんなが元気な学校」は、教職員の工夫で改善の余地があると考えております。

2022年6月に出された「Society5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ」でも、今後の教育について



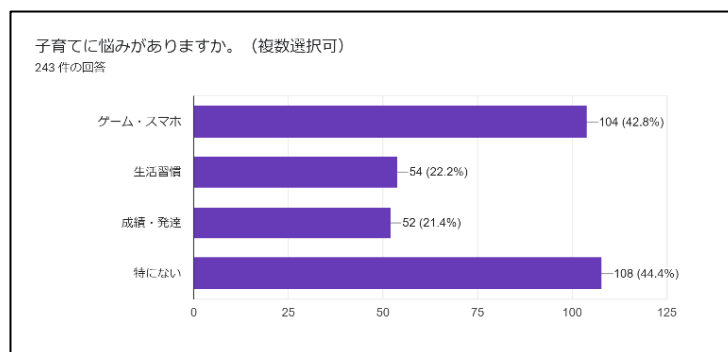
- ①子どもの学ぶワクワク感
- ②教科の学びが自分の設定した課題の解決に活かしているという実感
- ③自分の学びを自分で調整する力
- ④「好き」や「夢中」を手放さない学びの実現

が重要だとされています。

今年度は、白砂委員会や高学年児童を中心にとりくんだ「～愛され続けて150周年～信達フェスティバル」では、子どもたちが自分たちでできることを考え実行することで、「全学年の繋がりを感ぜられる行事でした」と保護者のみなさまからも一定の評価をいただきました。来年度も、子どもたちがワクワクする学びを創造するとともに、子どもたちが自分たちの学びを発信し、役立ち感を感じる学校となるよう進めてまいります。

4. 子育ての悩み スマホ・ゲーム

子育ての中で一番多い悩みがスマホ・ゲームに関するものでした。その背景の一つには、学習用タブレット導入の影響もあると考えております。学校でも、学習用タブレットは学習にのみ使用することや使う時間を考えるように指導をしております



が、ご家庭でも声かけをしていただくとありがたいです。また、自由記述欄には、タブレット持ち帰りについてのご意見もいただいております。学校としましては、家庭学習にAIドリル「Qubena」の活用や、学校からの配布物をお子様のタブレットを通じて配信することも検討をしております、今後もタブレットの持ち帰りを前提とした教育活動を考えております。

5. 自由記述欄のご意見から

①学習面について

○職業選択の幅をもたせるため、いろいろな方の話を聞かせてあげてほしい。

子どもたちが、自ら進路を切り拓くために、生き方のモデルとなる人との出会いはとても大切です。本校でも、総合的な学習の時間や生活科の学習を中心に地域の人との出会いや企業からの出前授業を設定しておりますが、その幅はまだまだ限られたものとなっております。今後は、対面型だけではなく、リモートを活用した人との出会いを設定することも考えていきます。



○授業を習熟度別にしてほしい。

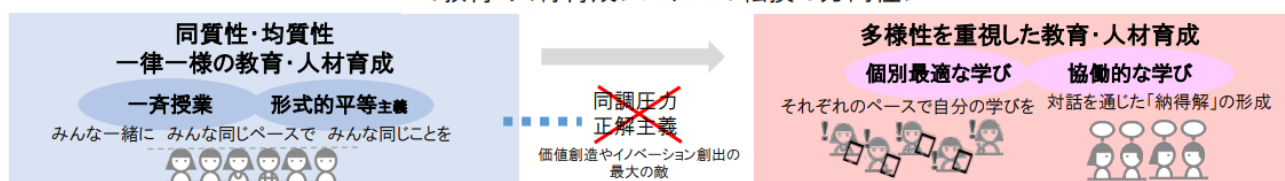
○基礎学力の向上のために、宿題の量や内容を見直してほしい。

本校でも、高学年を中心に加配教員を活用した習熟度別分割授業や専科授業を行うとともに、文部科学省が提唱する「個別最適な学び」と「協働的な学び」とを一体化した授業づくりを模索しております。

これまでの習熟度別分割授業では、習熟度コースごとに一定の学力層に焦点を当てた一斉授業スタイルで行っておりました。一方で「個別最適な学び」と「協働的な学び」とを一体化した授業では、同じ教室にいる多様な子どもの特性や学習進度に応じて、自ら学習を調整する力を育てる「そろえる」教育から「伸ばす」教育への転換をめざしております。

また、授業のあり方とともに、家庭学習につきましても、自らの学習を調整し、自学自習する力を育成するために、決まった宿題とともに、家庭学習ノートや「Q u b e n a」を活用した「自ら学ぶ習慣づくり」を進めたいと考えております。

＜教育・人材育成システムの転換の方向性＞



内閣府総合科学技術・イノベーション会議「Society 5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ」（2022年6月2日）より抜粋

②保護者参加の行事について

○運動会の観覧時本部両サイドや参観が密なので、分散してほしい。

○マラソン大会見に行けたら応援に行きたい。

○学級懇談の時間が短すぎてあまり先生とお話し出来ません。

●運動会の演技の場所や参観場所については毎年検討をさせていただき、今年度は本部テントの配置を変更し、保護者が参観できるスペースを広げさせていただきました。

●参観につきましても、学級ごとに分散という形式も検討をしておりましたが、前後に実施します学級懇談を考え、今年度は、学年ごとに分散という形式させていただきました。

- 長距離走につきましては、通常の授業の中で記録を計測するスタイルで実施した5年生以下の学年では、スタート時の映像を配信させていただき、マラソン大会という形式で実施した6年生のみ保護者の参観とさせていただきました。
- 個人懇談会につきましては、午前中を希望されるご家庭が多く、午前中に懇談会を設定するために1日とさせていただいております。また、午後の時間帯の方を希望されるご家庭の方が少ないため、比較的ゆっくりと時間をとれることが多いです。

来年度の行事につきましては、今年度の形式をこだわることなく、行事のねらいに応じてどのような形式がいいのか校内で論議するとともに、PTA実行委員会でも意見をいただきながら検討を進めさせていただきます。なお、令和5年度の運動会は、熱中症対策のために、これまでよりも2週間程度遅い、10月14日（土）開催予定です。

③学校のきまりについて

○学力だけで子どもを評価してほしくない。もっと子ども達がのびのびと楽しめる学校になってほしい。校則などもいつ誰が作ったのか。服装、髪型、ヘアゴムなど子どもの個性を大切にしたいので自由にしてほしい。荷物の少ない時は子ども自身が考えてランドセルではなく黄カバンなどで、自分で考え行動出来る子になってほしい。

- 学校のきまりについて、文部科学省が令和4年12月に公表した生徒指導に関する学校・教職員向けの基本書となる「生徒指導提要（改訂版）」をもとに、校内で見直しを進めております。「生徒指導提要（改訂版）」では、学校のきまりについて、以下のように定義されております。



- ①児童が健全な学校生活を送り、よりよく成長・発達していくために設けられるもの
- ②社会通念上合理的と認められる範囲において、教育目標の実現という観点から校長が定めるもの
- ③学校のきまりを守らせることばかりにこだわることなく、何のために設けたきまりであるのか、教職員がその背景や理由についても理解しつつ、児童生徒が自分事としてその意味を理解して自主的に守るように指導していくことが重要

小学校としましても、社会規範の遵守をふくめ、子どもたちが、社会の中で自分らしく生きることができる存在への成長につながる教育の一環となるように、学校のきまりを検討していきます。

○学級通信があるクラスないクラスあって、ないクラスだと子供の様子や先生方の思いが分からない。HPも更新されないし、学校からの発信をもっとしてほしいです。

- 学校からの発信につきましては、学校だより・学年通信・学校ブログを基本とさせていただいており、ブログの更新につきましては、ご意見をもとに改善をさせていただきます。なお、学級通信につきましては、通常業務の範囲を越えたものとなっております、すべ

ての学級で発行することは難しいことにご理解をお願いします。

○放課後残れる日を増やしてもらいたいのと、低学年の子も残れるようにしてもらいたいです。ボール遊びのできる公園が少なく、放課後伸び伸び体を動かせる場に、学校を開放してもらえると嬉しいです。

●現在、週2回実施させていただいている「選択下校」は、教職員の勤務時間内の業務として位置づけており、国から教職員の働き方改革が求められている現状では、教職員の勤務として行う「選択下校」の日数を増やすことは難しいと考えております。今後は、教職員の勤務とならない学校管理外の「校庭開放」も含めて、検討をすすめたいと考えます。

④1 学級の人数について

1学級の人数は、国が法律で定められております。文部科学省でも、令和3年度から5年かけて1学級35人に引き下げると発表しましたが、(令和5年度は新1・2・3・4年生のみ適用)本校ではこれに当てはまらず、新5年生は基準が適用されず2クラスになります。

⑤その他

- 給食のエプロンは、学校で貸与をしておりますが、同じような白エプロンを各家庭で準備して使用していただいても結構です。
- 服装につきましては、季節を問わずにカッターシャツ・ポロシャツどちらを着ていただいても大丈夫です。
- 体操服のゼッケンにつきましては、学年が上がるごとの書き換えや購入の負担を軽減するために、名前のみとさせていただきます。市販のゼッケンでも白布でも結構です。